

③

防犯事業

【安心安全課】

資料

外部評価実施日：令和元年7月31日（水）

令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成 ～長久手市行政評価・外部評価～

防犯事業

くらし文化部 安心安全課

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

長久手市はあいさつ運動に取り組んでいます

1

1 事業概要（A票）

◆事業の名称

防犯事業

◆事業の開始の背景、経緯等

県内の刑法犯認知件数は、平成6年と比べて平成15年には倍増するなど治安の悪化が心配されたため、平成16年に、愛知県安全なまちづくり条例が制定された。市としても市、市民、事業者の責務や取り組むべき施策の基本事項を定め、三位一体となって安全で安心して暮らせる社会を実現させることを目的とし、事業に取り組んでいる。

2

2 事業の実施体制（A票）

◆組織体制、人員

くらし文化部 安心安全課

課長	1人
主幹	1人
課長補佐（交通防犯担当）	1人
交通防犯係長	1人
主事	2人

3

3(1) 事業目的等（A票）

◆事業内容（どのような事業なのか）

- ①街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者及び市民を対象とした防犯教室の開催等により、市民の防犯意識の啓発、地域の絆づくりを推進する。
- ②地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行い、地域防犯を推進する。

◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

市民、自主防犯団体、自治会等

4

3(2) 事業目的等 (A票)

◆事業意図 (対象をどのような状態にしたいか)

防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。

◆事業を構成する事務事業 (B票)

① 防犯対策事業

② 自主防犯活動支援事業

③ 防犯啓発事業

5

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

防犯対策事業

◆目的 (対象・手段、意図)

【対象・手段】

防犯協会の運営、愛知地区防犯協会連合会への助成を行う。

【意図】

防犯意識を高め、犯罪の少ないまちを目指す。

◆事務事業の活動状況

犯罪のない安心で安全に暮らせるまちの実現のため、防犯協会の運営、防犯協会連合会への助成を行う。

6

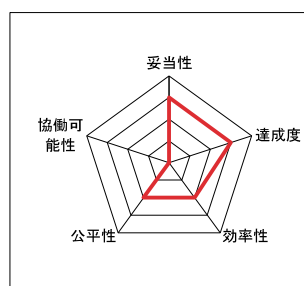
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆前年度からの改善状況

愛知地区防犯協会連合会と協力し、防犯啓発活動を行った。

◆事務事業の評価

妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	—



7

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業①】 (B票)

◆協働可能性について ・市民参加の延べ人数

・協働の状況

協働すべき事業がない。

8

4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業①】 (B票)

◆活動エピソード

愛知地区防犯協会提供の啓発品により、啓発活動を行った

◆改善ポイント

今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。

◆今後の方向性

改善・見直し

9

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

自主防犯活動支援事業

◆目的（対象・手段、意図）

【対象・手段】

地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行う。

【意図】

自主防犯ボランティア団体を支援することにより、防犯活動を活発にし、犯罪のないまちを目指す。

◆事務事業の活動状況

- ・ 防犯ボランティア団体に活動資機材を貸与 4種類
- ・ 自主防犯ボランティア連絡会議の開催

10

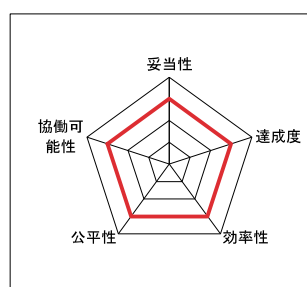
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

◆前年度からの改善状況

昨年に引き続き、防犯ボランティアリーダー養成のための講座を開催し、防犯ボランティア団体等を通じ参加者を募ったが、新たな人材の参加が少なかった。

◆事務事業の評価

妥当性 3
達成度 3
効率性 3
公平性 3
協働可能性 3



11

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業②】 (B票)

◆協働可能性について ・市民参加の延べ人数

・協働の状況

自主防犯ボランティア団体の定例会などに、愛知警察署と共に参加し、情報交換等を行った。

12

4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業②】 (B票)

◆活動エピソード

昨年に引き続き、防犯ボランティア養成講座を開催した。

◆改善ポイント

地域で設立が進む「まちづくり協議会」等の協力を得ながら、防犯活動の担い手の育成を進める必要がある。

◆今後の方向性

改善・見直し

13

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

◆事業を構成する事務事業

防犯啓発事業

◆目的（対象・手段、意図）

【対象・手段】

街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者を対象とした防犯教室を開催する。

【意図】

防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。

◆事務事業の活動状況

- ・防犯講習会の開催数は、見込みを下回った。
- ・犯罪手口に合わせた防犯キャンペーンを実施した。

14

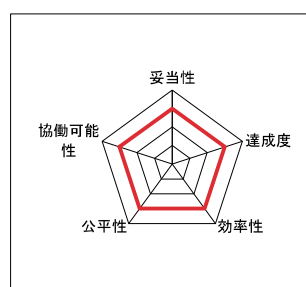
4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

◆前年度からの改善状況

自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杵ヶ池公園駅で、鍵かけ（ツーロック）の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。

◆事務事業の評価

妥当性 3
達成度 3
効率性 3
公平性 3
協働可能性 3



15

4 事務事業の目的・活動状況【事務事業③】 (B票)

◆協働可能性について ・市民参加の延べ人数

・協働の状況

地域の自治会連合会等の協力を得て、防犯講習会等を実施した。

16

4 事務事業の評価・今後の方向性【事務事業③】 (B票)

◆活動エピソード

自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杣ヶ池公園駅で、鍵かけ（ツーロック）の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。

◆改善ポイント

市内の犯罪発生状況により、その時に必要な防犯啓発を実施する必要がある。

◆今後の方向性

改善・見直し

17

5 コスト (A票)

◆平成30年度事業費

1,681千円

◆平成30年度人件費

3,974千円

◆事業費の主な内訳

- ・ 消耗品費 965千円
- ・ 愛知地区防犯協会連合会負担金
700千円

18

6 事業の成果【成果指標①】 (A票)

◆事業の成果指標

刑法犯認知件数

◆事業の成果目標

刑法犯認知件数 469件

◆事業の成果実績

刑法犯認知件数 338件

◆成果指標、目標等の設定理由

刑法犯認知件数は、年々減少しており、前年件数の5%を目標とした。

7 環境変化 (A票)

◆近隣市町の実組状況や事業を取り巻く環境変化

愛知県内では、高齢者が被害に遭う特殊詐欺が、依然発生している。

8 事業の評価（A票）

◆事業の目標達成状況

刑法犯が35%減少し、刑法犯認知件数が設定した目標数を下回った。

◆事務事業全体を見た課題

刑法犯認知件数は減少しており、防犯啓発活動は一定の効果があったと考えるが、犯罪手口は多様化、複雑化していることから、警察等と連携し、啓発活動を進める必要がある。

9 事業の今後（A票）

◆事業の今後の方向性

より多くの市民に周知、啓発できるよう、啓発方法等を検討する。

◆事業の中長期の目標

高齢化が進む自主防犯ボランティア団体が、継続して活動できるよう、担い手の確保につながる支援を行う。

10 事業のまとめ

◆事業の課題など

高齢化が進む自主防犯ボランティア団体が、継続して活動できるよう、担い手の確保が困難となっている。

◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

特になし

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	032 -	事業名	防犯事業			担当部課	くらし文化部安心安全課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち				会計区分	一般会計			
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～					予算区分(款 - 項 - 目)			
	第6次総合計画・基本目標	—				2-1-13 防犯費				
	法定受託事務の有無	—								
	その他(関係計画、要綱等)	—								
	事業開始の背景、経緯等	県内の刑法犯認知件数は、平成6年と比べて平成15年には倍増するなど治安の悪化が心配されたため、平成16年に、愛知県安全なまちづくり条例が制定された。市としても市、市民、事業者の責務や取り組むべき施策の基本事項を定め、三位一体となって安全で安心して暮らせる社会を実現させることを目的とし、事業に取り組んでいる。								
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ①街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者及び市民を対象とした防犯教室の開催等により、市民の防犯意識の啓発、地域の絆づくりを推進する。 ②地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行い、地域防犯を推進する。								
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、自主防犯団体、自治会等								
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。								
	事業を構成する事務事業(B票)	① 防犯対策事業	改善・見直し	④						
	② 自主防犯活動支援事業	改善・見直し	⑤							
	③ 防犯啓発事業	改善・見直し	⑥							
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)		
	事業費(A)	千円	予算 決算	4,485 4,632	6,305 6,488	5,063 4,264	2,004 1,681	2,641		
	人件費(B)	千円	決算	4,582	4,583	3,947	3,974			
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	9,214	11,071	8,211	5,655			
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)		
	A 刑法犯認知件数	件	目標 実績	790 648	584 542	488 521	469 338	321		
	B		目標 実績							
	C		目標 実績							
	【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)									
	A	市内発生 of 刑法犯認知件数(5%の減少)								
	B									
C										
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 愛知県内では、高齢者が被害に遭う特殊詐欺が、依然発生している。								
	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 刑法犯が35%減少し、刑法犯認知件数が設定した目標数を下回った。								
評価	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 毎年、刑法犯認知件数が減少している。								
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 刑法犯認知件数は減少しており、防犯啓発活動は一定の効果があったと考えるが、犯罪手口は多様化、複雑化していることから、警察等と連携し、啓発活動を進める必要がある。								
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知、啓発できるよう、啓発方法等を検討する。								
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 高齢化が進む自主防犯ボランティア団体が、継続して活動できるよう、担い手の確保につながる支援を行う。								

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・市民の防犯意識の向上により、活動が拡大するものと考えます。・セーフティステーションの運営を含め、協働事業として検討してください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	防犯事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	①	防犯対策事業		予算区分	2-1-13 防犯費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 防犯協会の運営、愛知地区防犯協会連合会への助成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め、犯罪の少ないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	1,280 1,374	810 792	808 764	799 766	799
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)	愛知地区防犯協会連合会負担金					700 千円	
(2)	消耗品費					51 千円	
(3)	普通旅費					13 千円	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
助成額	千円	見込	700	700	700	700	700
		実績	700	700	700	700	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
犯罪のない安心で安全に暮らせるまちの実現のため、防犯協会の運営、防犯協会連合会への助成を行う。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

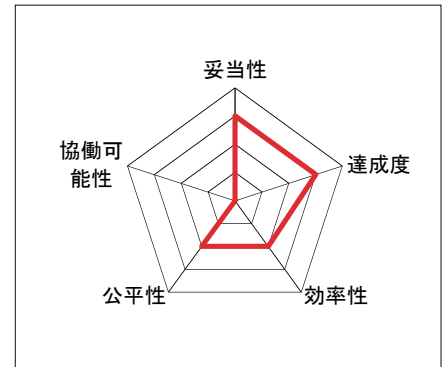
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
助成額に変更はない。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
799 千円	799 千円	0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	現状維持	
・前年度【コメント】		
今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。		
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
愛知地区防犯協会連合会と協力し、防犯啓発活動を行った。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
協働すべき事業がない。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
愛知地区防犯協会提供の啓発品により、啓発活動を行った。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	防犯事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	②	自主防犯活動支援事業	予算区分	2-1-13 防犯費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 自主防犯ボランティア団体を支援することにより、防犯活動を活発にし、犯罪のないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	2,634	5,484	3,434	234	234
		決算	2,573	4,723	3,092	162	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		消耗品費				161	千円
(2)		食糧費				2	千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
自主防犯ボランティア団体数	団体数	見込	27	27	27	27	26
		実績	26	26	26	25	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 防犯ボランティア団体に活動資機材を貸与 4種類 自主防犯ボランティア連絡会議の開催 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

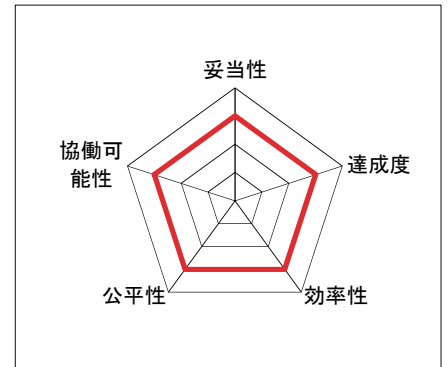
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自主防犯ボランティア団体の高齢化により、活動の継続に影響が出始めている。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
234 千円 234 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 縮小
・前年度【コメント】
今後は、防犯ボランティアリーダーを担う人材の育成等が課題である。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
昨年に引き続き、防犯ボランティアリーダー養成のための講座を開催し、防犯ボランティア団体等を通じ参加者を募ったが、新たな人材の参加が少なかった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
自主防犯ボランティア団体の定例会などに、愛知警察署と共に参加し、情報交換等を行った。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
昨年に引き続き、防犯ボランティア養成講座を開催した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
地域で設立が進む「まちづくり協議会」等の協力を得ながら、防犯活動の担い手の育成を進める必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	防犯事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	③	防犯啓発事業		予算区分	2-1-13 防犯費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者を対象とした防犯教室を開催する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	571 685	821 973	821 408	971 753	1,608
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		消耗品費				753	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
防犯講習会	回	見込	14	18	18	17	17
		実績	18	18	19	14	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 防犯講習会の開催数は、見込みを下回った。 犯罪手口に合わせた防犯キャンペーンを実施した。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

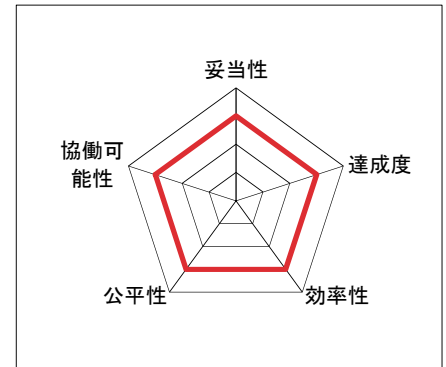
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
特殊詐欺の犯罪手口が多様化、複雑化している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
971 千円 1,608 千円 637 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
高齢者の方が特殊詐欺の被害に遭われていることから、高齢者の方への啓発を行いたいと考えている。しかし、市の行事に参加できない高齢者の方も多く、その方々への啓発方法を引き続き検討する。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杖ヶ池公園駅で、鍵かけ(ツーロック)の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
地域の自治会連合会等の協力を得て、防犯講習会等を実施した。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杖ヶ池公園駅で、鍵かけ(ツーロック)の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市内の犯罪発生状況により、その時に必要な防犯啓発を実施する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し